

令和 6 年度 学校自己評価システムシート (県立越谷北高等学校)

目指す学校像 高い理想と豊かな人間性を兼ね備えたグローバルリーダーを育成する。

重点目標

- すべての教育活動における「主体的・対話的で深い学び」によって、一人一人の生徒の主体性を伸長する。
- 理数教育やSSHの取組の充実と「リベラルアーツ」教育の実現によって、グローバル人材としての資質を高める。
- 地域と連携し、高い進路目標を掲げ、自己実現を目指す学校の情報を発信し、学校の評価を高める。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(月日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 ○1人1台端末環境に対応したBYADが定着し、活用されつつある。 ○「主体的・対話的な学び」「リベラルアーツ教育」等、深い学びに向けて実践できている。 ○学校行事や部活動を通して生徒の「主体性」を伸長するための体制が確立されている。 【課題】 ①1人1台端末環境に対応した授業実践と活用のための研修 ②「深い学び」に向けた指導のさらなる工夫・改善 ③すべての教育活動において生徒の主体性を育成するための情報発信と共有	①ICTの効果的な活用	a ICTの効果的な活用とデータの共有化の推進 b 1人1台端末環境に対応したBYADの活用方法の共有	ア タブレット、プロジェクター等、ICTを活用する授業の工夫に取り組めたか。 イ ICTを活用する授業実践が確立し、生徒の満足度が向上したか。 ウ 1人1台端末導入の体制が整ったか、また活用方法を共有できたか。		
		②「深い学び」の検証と研究	a 「リベラルアーツ」教育を主眼に置いた授業の実践 b 主体的・対話的な学びへの啓発 c 「深い学び」へ導く指導の工夫・改善	ア 生徒の授業への期待が、受験知識偏重から「リベラルアーツ」の必要性を認識した視野の拡大や教科横断型の知識の習得へ変化したか。 イ 主体的に深く掘り下げて学んだ経験をした生徒は増加したか。 ウ 「主体的に学ぶ力」を高めるための指導や「深い学び」を意識した指導に取り組む教員は増加したか。		
		③学校行事や部活動の充実と「主体性」を伸ばすための取組	a 生徒の「主体性」を高めるための意識啓発及び取組の工夫・改善 b 部活動における顧問と生徒との目標や計画の共有化 c 生徒主体の学校行事等の実施	ア 生徒の「主体性」を伸ばし、自律するための生徒指導等、教育活動の工夫・改善は行われたか。 イ 部活動の目標や計画について顧問と生徒、保護者で共通理解し、信頼関係はできているか。 ウ 生徒主体で実施された学校行事等は増加し、満足度が向上したか。		
2	【現状】 ○SSH事業は第2期に入り、学校全体の取組として浸透しつつある。 ○国際交流事業に積極的に取り組む各種事業が充実している。 ○探究活動が定着し、実践やプレゼンテーション等の機会を設定している。 【課題】 ①SSH事業の全校体制での取組強化とさらなる定着 ②国際交流事業の取組の継続と拡充 ③「理数探究基礎」と「総合的な探究の時間」の計画的な実施と発表の充実	①SSH事業の全校体制での取組強化	a SSH事業の全校体制での取組の構築及び拡充 b クロスカリキュラムの全校体制での取組の拡充 c 理数科生徒研究発表会の充実	ア SSH事業の生徒・保護者アンケートにおける評価は向上したか。 イ 全校体制で取り組むSSH行事は適切に実施できたか。 ウ クロスカリキュラムのシラバスと指導案の作成、授業実践は増加したか。 エ クロスカリキュラムを全校で取り組むために組織を再編できたか。 オ クロスカリキュラムがSSHの研究開発であることを、全校生徒が意識して取り組んだか。 カ 課題研究発表会が充実し、プレゼンテーション能力は向上したか。		
		②グローバル人材育成のための国際交流事業の充実	a カナダ派遣を主軸とした海外研修の実施 b グローバル人材育成のための各事業への参加意欲の啓発 c 授業実践を通じた国際交流感覚の育成	ア カナダ派遣等の海外研修は適切に実施されたか。 イ 大使館訪問、グローバルリーダーズプログラム等の参加生徒は増加したか。 ウ 授業を通じた国際交流の取り組みは充実したか、プレゼンテーション能力は向上したか。		
		③探究学習を通しての課題発見力・課題解決力の育成	a 普通科の「理数探究基礎」と「総合的な探究の時間」の計画的な実施 b 理数科の理数課題研究の充実 c 北高探究の日を活用した実践発表	ア 「理数探究基礎」と「総合的な探究の時間」は計画に沿って組織的に実施・指導できたか。 イ 課題発見力・課題解決力は向上したか。 ウ 北高探究の日の成果があり、探究活動を通じたプレゼンテーション能力が向上したか。		
3	【現状】 ○50%程度の生徒が国立大学又は難関私立大学に進学している。 ○ICTを併用した情報発信が行われている。 ○中学校、特別支援学校、地域との交流が実践されている。 【課題】 ①キャリアを考えさせる指導と目にある高い進路希望を実現させる指導の確立 ②ICT等を活用した通時・適切な情報発信 ③重点化した小中学校や地域交流のさらなる充実	①キャリア教育を通して、高い進路希望を実現させる取組の充実	a 3年間を通じた計画的なキャリア教育の実践 b 高い進路希望を持ち続け、その実現につなげる指導の充実 c 進路希望に応じた講習の充実	ア 3年間を通じたキャリア教育、進路指導はできたか。 イ 高い進路希望を持たせる指導の工夫改善はできたか。 ウ 受験対策指導、生徒個別指導や保護者面談は通時・適切に実施できたか。 エ 大学入学共通テストに対応した指導の工夫改善はできたか。 オ 大学入学共通テストと教科以上受験者の割合は増加したか。		
		②教育活動のICT等を活用した情報発信	a ICTを活用した情報発信の充実 b 生徒募集対策の実施内容・方法の工夫・改善	ア 本校の魅力や生徒の活動をICTを活用して通時・適切に情報発信できたか。 イ 生徒・保護者の情報発信に関する肯定的評価は増加したか。 ウ HP閲覧数は増加したか。 エ 中学生の本校に対する評価は高まり、本校志望者数は増加したか。		
		③地域や小中学校との交流の改善	a 各種交流活動への参加や実施	ア 部活動や生徒会による地域や中学校、特別支援学校との交流は適切に実施できたか イ 参加する生徒が増加したか。生徒が成長したか。満足度が向上したか。		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	